

第2次芦屋市地域福祉計画の実施プラン票（福祉部以外）

A：十分取り組めた B：取り組めた C：不十分な取組だった

目 標	協働して取り組む柱と方向	市が先導的に取り組むこと	所管関係課名	平成26年度目標	25年度取組状況	平成26年度現状	平成26年度課題	平成27年度目標	26年度取組状況	
5. 人と人のつながりを広げます	5-1) 地域でのつながりづくり *あいさつや交流を積極的に行い、困ったときにはたすけあえるつながりと“絆”を広げます。 *地域で支えあうために必要な個人情報の共有について、話しあいをすすめます。	(1)地域組織の活動への支援 ・自治会、老人会、子ども会、コミスク等の地域組織の活動を、市民の共通課題である地域福祉や、災害時に避難が難しい人への支援をひとつのテーマとして活性化しよう、地域発信型ネットワーク等を通じて支援します。 ・身近な地域での支えあいやすめる基盤となる自治会等への加入を促進するよう呼びかけるとともに、マンション等での取組を支援します。	市民参画課	自治会で、地域の特色に応じたチラシを作成して、啓発活動を活発化させることに取り組む。	B	自治会への加入のチラシを作成して、芦屋市への転入者や、以前からお住まいの方に加入の案内をしている。一部の自治会で独自のチラシを作っている。	自治会に未加入の世帯が30%ある。	集客のある催しにおいて、自治会への加入を呼びかけていく。	B	
			市民参画課	あしや市民活動フェスタによる市民交流、市内中間支援団体間の交流会の促進、ネットワーク間の連携を支援	A	あしや市民活動フェスタによる市民交流、市内中間支援団体間の交流会の促進、ネットワーク間の連携を支援している。	様々な市民活動団体の交流を促進し、ネットワーク間の連携を支援	継続実施	A	
			上宮川文化センター				・地域組織の活動への支援として、老人会の支援をしている。		継続実施	B
			防災安全課	防災・防犯冊子や津波浸水想定図の各戸配布を通じて、地域活動の必要性を啓発する。 また、活発、実績のある団体に対しては活動表彰への積極的な推薦を行う。	A	自主防災会は、防災総合訓練や地域での防災訓練を通じて、複数の防災会が合同で訓練等を実施し連携強化ができた。また、災害時要援護者支援について、関係機関との協議を行った。台風等による六甲山や広島市での大規模土砂災害を受けて、11月～12月に阪急以北の3集会所において、土砂災害の周知・啓発を行った。 まちづくり防犯グループは、登下校時の子ども見守り活動を通じて、連携強化を行うと共に高齢者の見守り等地域全体への見守り活動へ取り組みを進めている。		南海トラフ巨大地震による津波対策に重点をおいて取り組んできたが、平成26年8月に広島市で発生した土砂災害を受けて、市北部地域で土砂災害に対する認識が高まった。 まちづくり防犯グループの子ども見守り活動では、神戸市で発生した事件から下校後の子どもの安全対策について課題となっている。	土砂災害についての啓発活動を実施すると共に、事業者等との連携も含めた防災訓練を実施する。 災害時要援護者支援については、地域における個別支援対策について、関係機関と協議を行う。 防犯カメラ補助事業により、防犯活動を支援すると共に活発、実績のある団体に対しては活動表彰への積極的な推薦を行う。	A
			学校教育課	震災20年を迎える取組。	B	学校だけでなく地域とともに行う避難訓練の実施。		避難経路、避難先など全市の避難計画	関係機関と連携した実施及び実施校園の拡大	B
			生涯学習課	団体間のネットワークを広げるための支援を行う。	B	コミスクや学校支援団体の地域活動、団体間のネットワーク活動の支援を行った。		団体間のネットワークを広げるための支援。	団体間のネットワークを広げるための支援を行う。	B

目 標	協働して取り組む柱と方向	市が先導的に取り組むこと	所管関係課名	平成26年度目標	25年度取組状況	平成26年度現状	平成26年度課題	平成27年度目標	26年度取組状況
		(2)多様なつながりづくりの推進 ・地域で多様な人々が出会い、交流できるよう、サロン活動などを推進します。 ・地域との幅広いつながりがもちにくい(希望しない)人も、孤立せずだれかとつながりをもって生活できるよう、さまざまな社会参加活動やサービスの利用などを通じた多様なつながりづくりを推進します。	企画課	避難者情報を福祉部門など庁内関係部署だけでなく、NPO団体等と連携し、避難者の生活実態の把握や、継続した生活支援につなげたい。	B	東日本大震災により本市に避難されている被災者に対し、NPOやその他の団体等が実施する様々な交流活動(サロンや集い、催しなど)の情報を集約し、避難者に提供している。また、新たな避難者の発見のために、市民課等の窓口で、積極的に避難者登録への働きかけを行っている。	東日本大震災による避難者に対する支援が全般的に減ってきている状況である。本市のみが支援に対する啓発を行っても効果期待できない。本市より住民票の異動があれば、市民課より連絡が入るが、住民票の異動なしに転居された場合は実態の把握が不十分となっている。	避難者情報を福祉部門など庁内関係部署だけでなく、NPO団体等と連携し、実際の居住状態の把握や、継続した生活支援につなげたい。	B
			市民参画課	地区集会所で開催される事業や県民交流広場事業への参加を促進し、地域の人々の出会い、交流の場を作る。	A	地区集会所で開催される事業や県民交流広場事業への参加を促進し、地域の人々の出会い、交流の場を作っている。	集会所の稼働率は、約26%(H14)から約47%(H25)となり、多様な市民活動団体の交流と連携の場となっている。	継続実施	A
			上宮川文化センター			・教育・啓発事業(民謡教室等)、児童厚生事業(親子クラブ等)、いこい茶屋(毎週木曜日)等を当センターで実施。		継続実施	B
			環境課	・指定管理制度のメリットを活かし、利用者の意見把握と改善への取組みを進め、一層の利用者サービスの向上を図る。 ・設置目的に沿い、市民全般を対象とする広く公平な運営を目指し、利用者マナーの徹底を図る。 ・可能な範囲で、福祉イベントとのコラボレーションに向けた協議について検討する。	B	【あしや温泉の管理運営】 ・平成26年4月より、一層のサービスの向上と効率的で安定した管理運営を目指し、指定管理者による管理運営を開始した。 ・引き続き、条例に基づく、一般の公衆浴場よりも安価な入浴料設定に加えて、市内在住の高齢者や障がい者等への減額料金を適用していることや、障がい者用個室を設置する等により、高齢者を始めさまざまな方が利用しやすく、交流・憩いの場となっている。 ・体制の強化による安全管理の向上に加えて、ご意見箱の設置・イベント湯開催・スタンプカード作成・福祉フェアへの参加・震災20年事業への参画・専用ホームページ開設等により、利用者のニーズ把握やサービス向上を図り、苦情件数も減少している。 ・常連の高齢者を中心に年間9~10万人前後の方に利用いただいている。	・利用者のマナーや個人的嗜好を原因とする苦情の中でも、高齢者特有の症状等によるものが多く見られることから、専門的な福祉スキルを伴う対処が必要と考えられる事例が多く、苦慮するところである。 ・利用者ニーズを踏まえたサービスの向上の観点として考えられる、福祉の視点のみに特化したソフト事業の展開や福祉イベントとのコラボレーションについては、連携に関する課題(恒常的な関わりや情報把握、現場における行政職員の不在等)が多い。	・指定管理制度のメリットを活かし、利用者の意見把握と改善へのさらなる取組みを進め、一層の利用者サービスの向上を図る。 ・設置目的に沿い、市民全般を対象とする広く公平な運営を目指し、引き続き利用者マナーの徹底を図る。 ・利用者数の推移を注視し、必要に応じて新たな利用者の獲得への検討を行う。	B

目 標	協働して取り組む柱と方向	市が先導的に取り組むこと	所管関係課名	平成26年度目標	25年度取組状況	平成26年度現状	平成26年度課題	平成27年度目標	26年度取組状況
			保育課	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者との交流は、日程や企画に余裕をもって細く長く続けられる様に継続をしていきます。 ・中・高生との交流も継続していきます。 ・地域の親子との交流では、安全で楽しい場所と感じて貰える様な工夫をしたり、門扉にお知らせのご案内を掲示したりと、告知に努め参加者が増えるようにしていきます。 ・地域の人との交流は継続していきます。 	B	<p>(高齢者との交流)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公立保育所の4.5歳児が地域の高齢者施設を訪問し、歌を聞いて貰ったり踊りを見て貰ったり、手遊び等のふれあいを楽しみながら交流をはかっています。 <p>(中・高生との交流)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トライやる・ウィークでは保育所の乳幼児と積極的に交流する中で、乳幼児と一緒に遊ぶ楽しさを味わい、可愛いと思う気持ちを持てる場としてもらっています。職業(職場)としての1つとしても身近な物として感じてもらえる様にしています。高校生とは、授業の一環の中で関わりを持つ機会を継続的にしています。学校にも招待してもらっています。 <p>(地域の親子との交流)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の親子に「園庭開放」や「体験保育」に参加していただき、保育所を体感してもらっています。より多くの方に来ていただくために、6保育所でお互いに連携しあいイベント(プール開放・試食会・人形劇の案内等)を告知しあう工夫をしています。体験保育も回数を増やすなど積極的に取り組んでいます。 <p>(地域の人との交流)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時の避難先としてや、地域の秋祭りに参加。幼稚園、小学校とも交流をしています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭開放については、季節によって楽しみ方も違い、参加者数も差があるので検討し、工夫していく必要があります。 ・地域の人々とのつながりの意識を職員全員で確認し合う必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者との交流は、訪問の時期、日程に余裕を持ち、内容についても無理なく今後も継続していきます。 ・中・高生との交流も継続していきます。 ・地域の親子との交流では、親子で居心地が良いと感じて貰える園庭開放となるように工夫をし、参加者を増やしていきます。 ・地域の人々との交流を継続して行います。 	B
		(3)支援が必要な人を地域で支えるつながりづくり <ul style="list-style-type: none"> ・日常的に介護や支援等が必要で、緊急時に自力での避難が困難な人等を支援するしくみをつくるために、ニーズへの気づきや発見の取組を活かして、地域とのつながりと、日常的に支援しあえる関係づくりを推進します。 	上宮川文化センター			<ul style="list-style-type: none"> ・地域見守り会を発足させ、緊急時の連絡先を、見守りが必要なかたに配布した。 	対象者の把握	継続実施	B
		(4)地域福祉推進における個人情報のあり方の検討 <ul style="list-style-type: none"> ・プライバシー(私事をみだりに公開されない権利)を尊重しつつ、緊急時に支援しあえるしくみをつくっていくために、個人情報の共有のあり方を検討します。 ・個人情報に関する学習や、適切に管理するための支援を推進します。 	上宮川文化センター			<ul style="list-style-type: none"> ・地域見守り会の会議を通じて、個人情報のあり方を考えている。 	個人情報の管理方法	継続実施	B